

水資源機構 低入札価格審査委員会 審議概要

平成22年度第6回低入札価格審査委員会については下記の通り書類の回議をもって審議が行われ、調査結果等については了承された。

開催日：平成23年2月21日及び22日

委員

委員長 小澤 一雅 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授
尾野村 祐治 ジャーナリスト
高田 敏明 弁護士

(五十音順敬称略)

議事 1：【武蔵水路中流部改築工事の調査結果及び対処方針について】

調査結果等：低入札価格調査制度における重点調査を評価値第1位及び第2位の者について並行して行った。その結果、評価値第1位及び第2位の者については、費用の誤計上や不適切な計上内容が確認されたうえに、提出資料に不備があり、妥当性について確認できない費用があるなどした。このことから、品質の低下、賃金の不払い、下請へのしわ寄せ等の恐れがあり、当該契約の内容に適合した履行がされるとは判断できなかった。

以上のことから、評価値第3位の者に対し低入札価格調査を行い、適切に施工できると認められる場合は、評価値第3位の者を落札者とする。

審議の概要

- ・調査結果は妥当であると考え。評価値1位及び2位の者を落札者とするべきではない。
- ・工事は、できるだけ安価に行われるべきであると考えるが、工事を任せるとに重大な懸念があるとすれば、それは回避するべきである。
- ・積算金額を基に調査をすとしても、ヒアリングにより業者の施工計画を検証し、これにより妥当性を判断することができないかと考える。

議事 2：【富郷ダム城師下流地区地すべり対策工事の調査結果について】

調査結果：低入札価格調査制度における重点調査を評価値第1位の者について行った。その結果、以下の理由から工程の遵守及び品質を確保しつつ、安全に施工を行うとともに、賃金の不払い、下請へのしわ寄せ等の恐れが無く、当該契約の内容に適合した履行が行われると判断できる。

- ・資材については、長年取引実績のある資材商社から、現金決済により安価に調達することや、自社及び協力会社が近隣業者であるため、宿泊の必要がなく、現場管理費を削減できることなどを確認した。

- ・ 資材費については、調達予定会社の見積書及び過去の取引実績が添付されており、内訳についても明確な説明が得られた。
- ・ 下請予定会社の諸経費や施工提案に係る費用についても適切に計上されていることを確認した。
- ・ 品質管理、出来形管理及び安全管理については、必要な項目が計上されていることを確認した。
- ・ 現場管理費及び一般管理費については、必要な項目について計上されており、内容については明確な説明がなされ、問題となる内容は無かった。

審議の概要

- ・ 調査結果は妥当であると考え。落札率等から見ても当該者に落札させることはおかしくない。
- ・ 重点調査の結果、契約内容に適合した履行が行われないと判断した場合は、排除された業者に対する説明が大切であるが、契約内容に適合した履行が行われると判断した場合は、一般の外部に対して丁寧な説明をすることが大切である。
- ・ 建設業界は大変な不況であり、重点調査を受けても仕事を取りに行こうという動きがあるが、より安価に品質管理が出来る技術力を身につければ国際競争力が付くことから、そのこと自体は悪くない。水資源機構の役割は、品質の高い会社を残し、優良な業界にしていく役割を果たすことである。